

## 令和6年度事業報告書

自 令和6年 1月 1日  
至 令和6年12月31日

一般社団法人 日 本 書 道 院

当法人の令和6年度に於いて実施した事業は次のとおりである。

### 1. 第73回日本書道院展

外国人観光客も多くみられるようになった上野公園内東京都美術館で、4月3日（水）～8日（月）まで第73回日本書道院展を開催しました。

公募と同人以上の出品作品総数は前回展から54点増え、2年前の71回展よりも1点増の1,057点でした。上野公園周辺はお花見客で賑わう中、入場者は9,029人と1万人を目前としました。73回展の文部科学大臣賞は6尺×10尺サイズに4行書きの漢字作品を力強く表現した神作理事が受賞いたしました。役員作品をはじめ大臣賞・会長等の大作が並ぶ1室から2室、各部門上位入賞作品が展示される3室、詩文書中心に展示される4室は、広い会場がより明るく見える陳列となり来場者に好評でした。半紙サイズの「咲蕾展」は年々増加し額装も含め186点の出品がありました。作品内容も書を楽しむ姿が現われ好評でした。初出品の方から審査会員まで一緒に楽しめます。今年も皆様の出品をお待ちしております。

4月7日（日）の表彰式と「出品者の集い」は桜の賑わいを見渡せる、上野・東天紅会場で併せて開催いたしました。ご来賓もご出席頂いた「出品者の集い」は185名の参加者があり、会場一杯に参加者の笑顔があふれる楽しい会となりました。

### 2. 第73回全国学生書道展覧会開催と表彰式

第73回全国学生書道展覧会は、少子化や諸物価高騰の影響も考えられ、前年より66点少ない1,461点（指導者出品14点含む）でした。それでも会場は親子連れが多く、学生書道展らしい嬉しさ一杯の楽しい展覧会となりました。会場でのQRコードを利用したHP閲覧は、若い世代ではすっかり定着した様子でした。今年の文部科学大臣賞受賞者は出品まで1,200枚の練習を重ね、中学生で初めて挑戦する行書体を見事に書き上げ栄冠を掴みました。

4月4日（木）の表彰式は、昨年に続き不忍池のほとりの上野・東天紅で開催しました。落ち着いた会場からの景色も良く、晴れやかな表彰式が出来ました。令和7年も同じ会場で開催いたします。

### 3. 第12回100人展・第41回選抜展・第16回同人展

11月19日（火）～24日（日）まで100人展をセントラルミュージアム銀座で、選抜展・同人展をフェニックスホールで予定通り開催しました。出品総点数は318点、昨年より11点の減でした。

今回の100人展はQRコードで確認できる理事・監事・顧問作品の釈文に、英語と中国語を加えました。来場者や書道専門誌関係者から高評価を頂きました。

1階と2階で行われた選抜展・同人展も室内のリニューアル工事のお蔭で全体が明るく広く感じられ、作品が映えました。天候にも恵まれ入場者1,877人と盛況でした。

11月24日（日）の懇親会は、帝国ホテル「孔雀西の間」で来賓を含め117名の参加でした。懇親会の中で月刊「日本書道」誌800号達成と、中村会長の役員就任50周年を祝って二胡奏者の楊雪（ヤンユキ）さんを招いて、素晴らしい二胡の響きを堪能しました。ご紹介頂いた日本中国文化交流協会様には感謝申し上げます。

### 4. 第75回毎日書道展

第75回毎日書道展は日本書道院から総出品点数762点でした。公募の部では毎日賞5名・秀作賞11名・佳作賞26名に加えて、U23で毎日賞1名と奨励賞1名の受賞があり好成績でした。毎日展の会員賞は「かな部」で浜田舟美さんが見事受賞いたしました。表彰式は7月21日（日）にザ・プリンスパークタワー東京で開催され、文部科学大臣もご出席いただきました。ただし、2,000名を超える当日の出席者全員での懇親会は毎日書道展としては開催せず残念でした。日本書道院の懇親会は同ホテルで開催いたしました。受賞者と役員に加えて毎日展委員として働いた方々も出席して、楽しい懇親会となりました。

### 5. 詩文書作品実技勉強会

6月6日（木）と11月7日（木）の午前中に、詩文書作品実技勉強会を開催しました。参加者が揮毫したものを添削するのではなく、事前に課題を伝え半切又は半切2分の1サイズに自由に詩文を纏める勉強会です。11月の開催では今回特に、中村会長が墨・硯を変えながら墨を磨り、筆も数種類使った揮毫を実演頂きました。参加者は墨色の違いや墨の濃さで作品効果が変わる様子を目の当たりにしてから、それぞれの作品の揮毫に取り掛かりました。1時間ほどの揮毫時間でしたが講評を頂いた作品は今までにない勉強会の成果となりました。参加者は6月が35名、11月は25名でした。会場はどちらも日暮里サニーホールを利用しました。

## 6. 支部長会

詩文書実技勉強会と同じ6月6日（木）と11月7日（木）午後に、第46回と47回の支部長会を開催いたしました。会場は日暮里サニーホールでした。

参加者は6月が58名、11月が32名でした。6月は例年通りの資料による試験課題の解説でしたが、11月は中村会長と成田常務理事が実演で揮毫をしながらの説明を行いました。墨のつけ方やカスレの表現、作品揮毫に大切な起筆・収筆の筆使い等参加者にわかりやすく説明し、参加者は食い入るように手元や筆先を見つめていました。今後も工夫を凝らした支部長会を開催していきます。

## 7. 研修旅行

9月28日（土）～29日（日）の二日間で北陸福井と石川を巡る研修旅行を開催しました。1日目は延伸した北陸新幹線で福井駅に向かい、バスで永平寺に参拝しました。その後は日本最古の天守閣が有名な丸岡城と断崖絶壁の東尋坊を見学し、石川県の片山津温泉で宿泊。2日目には白山市・松任駅近くの書と絵画の鬼才「中川一政記念美術館」「千代女の里俳句館」、金沢市・常福寺「北方心泉記念館」と書跡にまつわる見学コースを経て、市内の加賀料理で昼食後に前田藩ゆかりの兼六園と金沢城を見る濃密な研修旅行でした。今回も日本書道誌で「筆硯こぼれ話」連載の川野純一様にご案内頂きました。参加者は20名でした。

## 8. 書道研修会の開催

- (1) 日本書道院展・毎日書道展向けの研修会を、1月28日（月）に川口リリアで開催しました。実技参加者と添削での参加者合わせて102名の参加でした。
- (2) 100人展・選抜展・同人展向けの研修会は、8月1日（木）に日本書道院会館で開催しました。郵送での添削も含めて42名の参加でした。
- (3) 他に各支部主催による錬成会・研修会が開催されました。  
（開玄社合宿錬成会・東京相峻会大字錬成会・水光会作品研修会・  
玄同社錬成会・祥祇会錬成会）

## 9. 師範・準師範・昇段級受験者のための研修会

師範受験者等への研修会を8月8日（木）と9月12日（木）に開催しました。8月は受験者本人が会場で揮毫する実技研修会。9月は中村会長と成田常務理事が添削による研修会でした。実技による研修会は臨書作品の特徴や規定課題等をより深く理解できたようで大変好評でした。2回の研修会の参加者はそれぞれ19名と20名でした。本年は実技による研修会を主体に計画する予定です。多くの方の実技参加をお待ちしています。

## 10. 各種師範合格認定証交付

日本書道院会館3階にて、各種師範認定証交付式・同人昇格推薦証交付式並びに第12回同人展優秀賞表彰式を12月1日(日)に開催しました。厳粛な雰囲気の中、滞りなく式が行われました。出席者は41名でした。

## 11. 機関誌「日本書道」の刊行

昭和32年11月創刊以来、令和6年12月現在をもって通刊806号を数え、12月号の発行部数は3,350部である。昨年6月号の800号達成時に中村会長が揮毫した「守破離」をプリントした大型バックを支部長に配布しました。

## 12. 関係文化団体との協力について

関係文化団体との連絡提携には格別の意を用いている。公益社団法人全日本書道連盟は維持団体、一般財団法人毎日書道会は参加団体、一般財団法人日本中国文化交流協会は特別会員として加盟している。

なお、中村雲龍会長は全日本書道連盟顧問・毎日書道会顧問・日本中国文化交流協会常任委員として協力している。また三宅相舟副会長は毎日書道会監事を退任して顧問に就任し、遠山白雲副会長は全日本書道連盟理事として協力している。

## 13. 会員との連絡について

会員との連絡については、機関誌「日本書道」を通じて周知徹底を図っているが、別に重要な事業については直接会員に通知している。なお、12月1日現在の会員名簿を作成した。

## 14. 会報の発行

12月20日付をもって「会報」47号を発行した。

## 15. 役員会及び各種委員会の開催

役員会6回          各種委員会・打合せ会6回

## 16. 支部の指導と地方展の後援

支部の行事と地方展に対する指導後援は次のとおりである。

- |     |    |          |     |            |
|-----|----|----------|-----|------------|
| (1) | 1月 | 祐正社展     | 1月  | 静書会書展      |
|     | 2月 | 開玄社書展    | 6月  | 祥祇会書展      |
|     | 8月 | 玄同社書展    | 10月 | 葵心会書展      |
| (2) | 1月 | 玄同社錬成会   | 1月  | 東京相峻会大字錬成会 |
|     | 2月 | 祥祇会錬成会   | 7月  | 開玄社合宿錬成会   |
|     | 7月 | 水光会作品研修会 |     |            |

## 17. 会員数

12月31日現在の本院の会員数は1,245名である。

## 18. 令和6年12月末現在の役員は次のとおりである。

|       |    |    |    |    |    |   |
|-------|----|----|----|----|----|---|
| 常任顧問  | 高橋 | 静  | 豪  | 市川 | 嘉  | 泉 |
| 顧問    | 本堂 | 耿京 | 苑子 | 矢島 | 虹  | 周 |
| 会長理事  | 神谷 | 雲村 | 龍舟 | 遠山 | 白龍 | 雲 |
| 副会長理事 | 中宅 | 相如 | 龍苑 | 斉藤 | 野  | 堂 |
| 常務理事  | 稲成 | 寿相 | 蓉紅 | 荻駒 | 静流 | 雲 |
| 理     | 青神 | 砥作 | 苑影 | 菅谷 | 志柳 | 芳 |
| 〃     | 白平 | 石山 | 苑影 | 細  | 柳  | 水 |
| 〃     | 山熊 | 田谷 | 苑春 | 小泉 | 瑤  | 青 |
| 〃     | 根  | 岸  | 驚游 |    |    | 伸 |
| 監事    |    |    |    |    |    |   |

令和6年度事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定している附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。